



二つの会議

ユウパリコザクラの会代表 藤井 純一

五月三十一日夕張岳関係者協議会が開催された。対面で行われるのは四年ぶりである。出席団体は、夕張市教育委員会、北海道環境生活部自然環境局自然環境課、空知森林管理署、空知総合振興局保健環境部環境生活課、南富良野町教育委員会、栗山警察署生活安全課、夕張市消防本部予防課、夕張市文化財保護委員会、夕張中央ライオンズクラブ、夕張山岳会、夕張岳自然保護監視員、ユウパリコザクラの会の計十二団体であった。

五月八日に林道ゲートから一・八キロのところ、が土砂崩れで、車の通行は出来ない、森林管理署から連絡があり、同十二日早朝現地確認に行ってきた。小規模の崖崩れで、小一時間程で土砂は除去できたが、その先六百メートル行ったところで、大規模崩落を見てしまった。落石防止のネットが張られている所である。

今季の小屋生活は終わりと思いきや、幸いなことに道路そのものの崩壊は無いようで、少し安堵した。関係者協議会もつばらこの話題で、森林管理署の苦慮する様が痛いほど伝わってきた。今季一般登山者の入山は絶望的との見解であった。ヒュッテ母屋のトタンが三枚剥離しているのが気かりで、トタンもすでに注文したが、自然現象には勝てない、受け入れるしかない。まことに残念なことである。

今回は我会を多年に亘り悩ませていた、保護ロープ

第120号

2023.07.07 発行

(令和5年)

ユウパリコザクラの会

事務局(菊地)

〒069-0835

江別市文京台南町53-13

FAX 011-387-1385

携帯 080-6090-1839

E-mail

info@yuparikozakura.org

Website

http://yuparikozakura.org

ようこそ花の夕張岳へ

https://www.facebook.com/

yuparikozakura/



切断事件について報告した。資料が手元にないので、設置時期は書けないが、夕張市教育委員会が設置したもので、実作業は我会が行った。その後の維持管理も我会がしている。石原平、望岳台、前岳湿原、吹き通し、一四〇〇崩壊地(現在は第二崩壊地の入り口に移設し、文面も変更)の枠がアルミでアクリル板の看板もその時設置したものである。あくまでも市教委が設置したものである。切断された六ミリのクレモノロープの現物を皆様にお見せして、決して自然に切れたものでないことを納得してもらった。以前は単にロープが切断されただけで、結びなおして再度使用したが、今回は小刻みに切断された。完全に何かの意図をもってなされたことである。誰が実行したか勿論知りたいところだが、どのような主張であるのか及んだか知りたくないところである。切断事件と関連づけることは出来ないが、保護ロープの設置自体について、他団体から意見が述べられた。一か所だけを歩くとミチの崩壊が著しく、そのダメージを分散するためにも、保護ロープを張らずに自由に歩かせるべきだという意味合いの主張であった。確かにそのような考え方はある。ケモノミチが示すように、同じところを歩いているとミチが出来てしまう。バラバラに歩けば、踏みつけは分散され、同じところの浸食を防げる。またトイレ問題も言えると思う。一か所で用を足すから汚染されてしまう。私の友人で地形の研究者が、常念岳で毎日少しずつ場所をずらし、排せつ物の変化を調べたところ、冷涼地にもかわらず、思いのほか分解が早かったとのこと。一か所に集中しなければ、さほど問題では

ないと言っていた。これらを考えると、自由歩きの主張はわからないでもないが、五十年前と現在の入山者数が違う。私も五十数年前から登っているが、その当時は車の所有者も少なく、一般庶民は夕張市主催の山開きに登るのが唯一だったのではないかと。あの当時は大夕張営林署がマイクローバスを出して、三菱大夕張鉄道の明石町駅からヒュッテ下の駐車場まで、ピストン輸送してくれた。毎年百人以上の参加者がいたが、それ以外の日はほとんど入山者はいなかった。登山道には足の踏み場に困るほど植物が咲き乱れていた。その時のことを思い、自由にどこを歩いても良いとの主張は、如何なものか。木道についての考え方が、木道は人が歩きやすい様に設置したものではない。人は足元が汚れるのを嫌がり、歩きやすいところを歩く。前岳湿原もそうだったが、大雪山の天人峡のコースも何本も踏み跡ができ、無残な状態だった。木道は植物を保護するために設置したものだ。(木道は土地の乾燥化を促進し好ましくないとの説もある)我会にも長靴で登山する人がいる。これは靴の汚れを気にせずに行くためである。保護ロープも木道も同じ考えだと思ふ。かつて山岳団体が全国から資金を募って、カラマツ間伐材の木道を設置したことがある。吹き通しを自由に歩かせたら、やっと大地にしがみついて咲いている植物が踏みじられるのは明らかだ。自由に歩かせるという主張と切断事件を結びつけるものではないが、今後このようなことが無いことを切に祈る。ちよつと書き過ぎたかな。

五月二十一日コザクラの会の総会が開かれた。会場は初めての夕張岳おひぎ元の南部コミュニティセンターだった。参加者は七名で、何とも寂しい総会。決まったことは役員改選くらいかな。今回も不肖私が代表になった。交代を希望しているがいつも無視。

会員から総会の体をなしていないと指摘を受けた。会計監査等書面で行われておらず、総会が成立したとは言えない。会員に報告できるような総会ではなかった。一度役員会を開いてこの問題に対処しなければならぬ。

アポイ・ユウ・パリ交流学習登山会 に参加して

会員 幸村 和美

6月3日4日に開催された『第13回アポイ岳安全登山・盗掘防止研修会兼アポイ岳ファンクラブ・ユウパリコザクラの会交流学習登山会』に参加してきました。コロナが開けてさまざまな制約が解除されて、アポイ岳ファンクラブとの交流登山が再開されるということで、あこがれのアポイ岳だということとはもとより、林道崩壊でパトロールができなくなりコザクラ会メンバーとの貴重な山行機会でもあるので一も二もなく参加表明しました。当会からの参加は10名の精鋭?であります。

1日目は「山のトイレを考える会」の仲俣善雄事務局長による「山を守る〜山のトイレの必要性〜」という講演内容で道内における山のトイレの現状と課題について映像をまじえて勉強させていただきました。わが夕張岳においても携帯トイレを推奨・販売している関係上、回収については議題にあげたほうがよいのかと考えさせられました。

懇親会では楽しいことがたくさんありました。ドット柄のマスクをかけた様似町学芸員でもある水永氏。「実はダニ柄なんですよ。」えっ!と衝撃を受けている私に追い討ちをかけるように「3種類のマダニがいるのわかりますか?」えっ!?!?!えっ!?!?!「☆り#▲!※∞



前日に行われた学習会の様子

×マダニとなんちゃらマダニと...云々、この時は外国語のように聞こえていたと思います(汗)。恐るべしアポイ岳ファンクラブ!聞けば他にも、ダニは食いついたら離れないことから学業や恋愛成就に御利益があると評

判になり、マダニを封入したネックレスやキーホルダーが様似町のふるさと納税にも採用されて現在は売り切れだとか。嫌われもののマダニをこのように活用され、まわりまわって登山道や高山植物の保全資金にいかされるその逆転の発想に感心しきりであります。

あと、話題となったのはやはり高山植物の盗掘についてです。夕張岳も一昨年何度も盗掘騒ぎがありました。アポイ岳でも毎年盗掘に悩まされているとのこと。『浜の真砂は尽きるとも世に盗人の種は尽きまじ』とは石川五右衛門の辞世といわれますが、そこにあつてこそ高山植物の盗掘は御勘弁願いたい。

宴もたけなわとなったところで突然部屋の明かりが消え、ロソクに火をつけたケーキが運ばれてきました。なんと!前日誕生日だったという菊地事務局長へのサプライズプレゼントであります。つい先ほど菊地さんが自己紹介のなかで前日誕生日だったということをおっしゃっていましたが、わずかな時間の間にこんなサプライズをしていただきそのホスピタリティに皆感動です。



アポイ岳山頂での集合写真

交流登山のコースはピンネシリ登山口からの縦走でこれも楽しみにしていた一つでした。ピンネシリ登山口はジオパークから北に車で45分ほどのところにあり、ほとんどの登山者はジオパーク側からアポイ岳にのぼるため一般的ではなく、登山アプリYAMAPも一般的



ガンビの神様からスタートする

登山道の表記がされていません。登山者が少ないことから事前にダニ注意のアナウンスがある一方、見つけたダニは採集せよという驚きのミッションも(笑)マイクロボスの前に飛び出してきてヒヤリとさせられます。

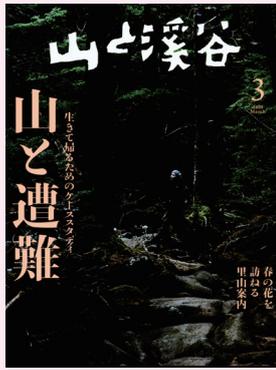
登山口には『ガンビの神様』の標識が立っており、その昔白樺の太木『ガンビ龍神』を祀っていたところだそうです。安全登山を誓って出発。前半は倒木処理やダニの採集をしながらすすみますが、ほどなくして雨に降られて、稜線に出る頃には本降りとなってきたため皆レインウェアを着用、以降は雨とガスでほとんど眺望の無い中の登山となりました。ピンネシリ、吉田岳と山頂を踏みましたが両方とも縦走路から少し登ったところにあるので、中には山頂を踏まず待機する人も。ピンネシリからはお花も増えてきて本来なら写真もたくさん撮るところですが、雨のためそれほど撮影できず。それでも晴れていれば素晴らしいお花畑がつづくであろうことは容易に想像が付き、つぎは天気の良い時に来ると誓いながら歩を進めました。アポイ岳山頂で山頂標識をバツクに全員で記念撮影し下山。下山後はジオパークに寄りダニマスクとダニバッチを購入(笑)その後、アポイ山荘で温泉とそうめんをご馳走になり帰途につきました。



ガタガタのクワガタが
イタチの目で見ると
ポツポツと見ると
アヤシイ感じ
やアヤシイ感じ
マダニ見ると
グールと見ると
チン

う。アポイ岳ファンクラブ、様似山岳会の皆さんにはこの場を借りて感謝申し上げます。今回の交流を通じて得た知識や気付きを今後の活動に活かしていかなければと大いに感じた交流学習登山会でした。

「山と溪谷」3月号に紹介されました



当会は2012年に日本山岳遺産の認定を受けました。その時の助成で13年には創立25年を迎えたことを記念した冊子『ようこそ花の夕張岳II』を製作、発行することができました。記念誌はA4サイズで192ページで、内容も夕張岳の自然解説とその生物多様性保護、会の活動の歴史、夕張岳ヒュッテ建設のドキュメントなど盛りだくさんの内容になり、夕張市と南富良野町の中学生全員と、道内の図書館に無料で寄贈されました。

山と溪谷社では21年までに認定を受けた団体のその後をレポートして、コラムとして山岳月刊誌の「山と溪谷」に載せています。

日本山岳遺産の横顔

Volume 27



日本山岳遺産基金
JAPAN MOUNTAINS HERITAGE FUND

- 1 山開きの6月、高山植物のバトロールをするメンバー
- 2 小中学生を招いて登山や星空観察などを行なう交流会
- 3 シューパロ湖から望む夕張岳



3



2



1

豊かな自然や文化を有する山岳エリアを認定する日本山岳遺産。それぞれの認定地では美しい山を次世代へつなげる活動が行なわれている。第27回は、北海道・夕張岳で高山植物の保護などに取り組む「ユウパニコザクラの会」を紹介する。

開発・盗掘の危機を乗り越えて未来へ

ユウパニコザクラの会

2012年度認定



活動エリア
夕張岳
主な活動
高山植物の保護

プロフィール/夕張岳のスキー場開発計画の反対運動をきっかけに1989年に組織化。高山植物のバトロール、登山道整備、夕張岳ヒュッテの管理・運営などを担っている。会員は約130人。

1988年、北海道中部に位置する夕張岳で、巨大スキーリゾートの開発計画が明らかになった。ゲレンデ予定地の90%近くが道立公園の特別地域で、動植物への影響は必至だった。

「開発から自然を守ろう」。その声を上げた登山愛好家や自然環境問題の有識者らが89年、固有種の名前を冠した「ユウパニコザクラの会」を立ち上げた。

会は、開発による自然への影響を周知し、計画の撤回や自然保護を訴えた。粘り強い運動の結果、96年に夕張岳の高山植物群落と蛇紋岩メランジュ帯が国の天然記念物に指定。計画は頓挫した。

夕張岳には、ユウパニコザクラ、ユウパリスウなどの固有種が生息する。これらの高山植物は、前出の蛇紋岩メランジュという独特な地質が育んでいる。

「夕張岳は、札幌市街から車で2時間ほどの距離にありながら、手つかずの大自然が多く残っています。花の種類も多く、湿原など変化に富む登山道や、山頂からの景色も美しい。そんな自然を守り、後世に伝えることが会の趣旨です」事務局長の菊地安治さんは、山の魅力を誇らしげに語る。

会が四半世紀にわたり続けているのが、高山植物のバトロール。90年代後半に相次いだ盗掘を受けて始まり、毎年10回近く実施。盗掘のほか、生育状況や踏み荒らしの有無を記録し、道へ報告する。

夕張岳ヒュッテの管理も担う。2007年の市の財政破綻後に一時解体が決まったが、会が建て替えを名乗り出た。旧小学校校舎の廃材を活用し、メンバー自らの手で小屋を再建。現在も増築やメンテナンスを継続中である。登山シーズンには管理人も配置している。

「年間約2000人が登山に訪れる山なので、安全に楽しんでもらいたい。その思いがほとんどですね」（菊地さん）

今、登山者が楽しんでる夕張岳の自然や風景は、会の活動がなければ失われていたと言っても過言ではないだろう。

日本山岳遺産基金とは

日本の山々の多様な自然や文化を継承するための基金。山と溪谷社などが2010年に設立し、21年度までに各地の42の山岳地域・団体を日本山岳遺産に認定。安全登山啓発や山岳環境保全などの活動を助成。22年度の認定候補地を募集中。
sangakuisan.yamakel.co.jp



夕張岳の固有種、ユウパニコザクラ

今後のスケジュール（予定含む）

月	日	各行事内容
7	23(日) 13:30-16:10	自然と文化を学ぶ市民講座 拠点複合施設「りすた」多目的ホール
11	11(土) or 18(土)	北海道高山植物保護ネット 市民フォーラム（北海道大学）

市民講座

日時 7月23日(日) 13:00開場
場所 拠点複合施設「りすた」多目的ホール
夕張市東通水沢4丁目45番地12 入場料・事前申込不要

第1部 13:30 ~ 15:00
ヒグマ講座「ヒグマとのつき合い方を考える」

第2部 15:10 ~ 16:10
「組織（会）の記録を遺そう」

主催 自然と文化を学ぶ市民講座実行委員会
協賛 NPO法人 EnVision 環境保全事務所研究員

当初はヒュッテ・夕張岳のフィールドを使用した子供交流事業を計画していましたが、林道通行止めの為、「自然と文化を学ぶ」というコンセプトは変更せず、市民講座に内容を変更しました。

7月23日に夕張市のりすた多目的ホールで行われますので、是非ご参加いただけますようお願いいたします。二部構成で、第一部は「ヒグマとのつき合い方を考える」早稲田宏一様（EnVision） 第二部は「組織（会）の記録を遺そう」山田 哲好様（コザクラの会）となります。

コザクラ会役員改選のご連絡

5月21日定期総会において、役員改選が行われました。令和5年度の新役員は以下の通りです。（敬称略）

■ユウパリコザクラの会

代表	藤井 純一	
副代表	空席	
事務局長	菊地 宏治	（兼務：HP、広報担当）
事務局員	谷口 鏡子	
会計	伊藤 泰弘	
会計補佐（新）	幸村 和美	（兼務） ★新任
会計監査	水尾 君尾	
	武田 一生	
パトロール部長	幸村 和美	★新任
自然観察員	阿部 博子	
	谷口 鏡子	（兼務） ★新任

■夕張岳ヒュッテ管理運営委員会

委員長	藤井 純一	（暫定）
副委員長	五十嵐 康成	
事務局長	菊地 宏治	
事務局員	高野 義治	

※総会の資料はホームページから参照可能です。

◇鹿島林道2.4km地点崩落箇所（上空正面）



崩落現場写真（ドローン撮影：空知森林管理署 HP より）
※ほぼ毎年のように小規模の崩落が起きていた箇所です。今回は崩落防止用の金網も全部土砂や樹木と一緒に落下してしまいました。

鹿島林道で土砂崩れ 通行止め

5月上旬に鹿島林道のゲートから2.4kmの箇所で大規模崩落が発生し、車両通行が不可能となっています。また、崩落土とそれまで斜面を押さえていた金網や倒木が入り交じり、歩行による通行も困難となつている状況です。再度の崩落も考えられる状況となつていことから、森林管理署で通行止めの措置がとられました。

夏山シーズン前で、当会もヒュッテの小屋開きの準備やパトロールの計画なども進めていたところではあります。徒歩での通行も難しい状況ですので、予定はすべて中止しております。

現在崩壊した現場に再度崩落防止用の金網ネットを設置するべく、工事の入札が行われているところです。

会費の継続納入・ご寄付
ありがとうございます！

夕張岳の自然に興味のある方、当会の活動に関心をお持ちの方は、ユウパリコザクラの会へ入会またはご寄付をよろしくお願い致します。

年会費 2,000円 家族会員 3,000円

名義：ユウパリコザクラの会

ゆうちょ口座：02780-9-43747

【お仕事の例】

- ・監視パトロール（道委託 / 森林管理署協定）
- ・ヒュッテ管理人・維持管理（夕張市委託）
- ・高山植物観察員 / 文化財・森林観察員
- ・各関係団体との交流 / 広報・庶務作業



夕張岳ヒュッテの維持管理
と炊事棟建設にご支援を！

林道での土砂崩れによる通行止めで、残念ながら今期のヒュッテの使用はできなくなりました。宿泊協力金がゼロになるのはコロナによる自粛以来となります。ヒュッテの屋根の修繕やトイレの洋式化など計画していた工事もありました。皆様からのあたたかい寄付を何卒よろしくお願い致します。来年度には平常に林道が通行できるようにと願っています。

名義：ユウパリコザクラの会

ゆうちょ口座：02780-9-43747

（銀行間振込の場合）

ゆうちょ銀行 二七九店 当座0043747

